

今年度は認知症を予防するために「認知症についての知識」、「認知症の治療とケア」、「認知症の予防」について、順を追って掲載しています。

今月は、認知症サポーターを紹介します。

認知症の治療とケア

あなたも 認知症サポーターに!



● 認知症サポーターとは

認知症はだれでもなる可能性のある病気です。他人ごととして無関心でいるのではなく、「自分たちの問題である」という認識をもつことが大切です。

認知症サポーターは、「なにか」特別なことをする人ではありません。認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族に対して温かい目で見守る、認知症の人への「応援者」です。

地域や職場などで認知症サポーターとしてなにごができるか一例を示しました。一人ひとりに個性があるように、対応は一様ではありません。自分たちに何ができるのかを考えてみましょう。

地域でサポート!

認知症の人が困っていたら「なにかお手伝いをすることはありませんか」と、一声かけてみます。たとえ、具体的な援助はできなくても理解者であることを示すことはできます。

認知症の介護家族には、「近所に迷惑をかけているのでは」という思いがあることがあります。「大変ですね。お互い様ですからお気づかいなく」といった一言や、ねぎらいの言葉をかけることで、家族の気持ちはぐっと楽になるものです。



働く場面でサポート!

地域で働く人の理解があれば、認知症の人が一人で買い物や食事に出かけることが可能になります。

例えば、道に迷うなどしても、地域で働く人が気にかけることで、安全に暮らすことができるでしょう。

日常生活に直接かかわる業種に従事している人々の理解と協力は、認知症の人が地域で生活を継続することの大きな支えとなります。



家族でサポート!

認知症の人の家族は、道に迷ってしまうことを想定しておき、探索器を用意したり連絡先等を身に付けさせておいたりして、万が一に備えます。

同居している場合には「共倒れ」になることを避けるためにも、介護サービスをうまく使うことや、「認知症の人と家族の会」のような当事者の会などから情報を得ることも考えましょう。

また、近隣住民からスムーズに協力を得るためには、認知症の人が家族にいることやその状態について、なるべくオープンにしているほうが良いでしょう。



おたっしや本舗

今月の福祉

多久市地域包括支援センター
(多久市役所 福祉課内)

☎ 75-6033

多久市地域包括支援センター（おたっしや本舗多久）は高齢者のみなさんが、いつまでも元気で安心して暮らせるように、あらゆる面から応援する総合相談機関です。

「認知症サポーター養成講座」を受けませんか？受講者には、認知症サポーターの印となるオレンジリングをプレゼントします。

ご希望の方は、福祉課へご連絡ください。

認知症ストップ作戦

No.12